

《各県コーナー》

福岡県の防災・減災に向けた取り組み

.....福岡県県土整備部河川課

1. 平成21年度の福岡県の状況

福岡県では「平成の奇数年には災害が多い」と言われるジンクスがあり、昨年はこのジンクスどおりの年となってしまいました。「平成21年7月中国・九州北部豪雨」がもたらした被害は、死者10名、負傷者9名、全壊・半壊24棟、床上・床下浸水戸数は5,400件を数え、また昨年度の公共土木施設の被害件数は642件、査定決定額は約55億円、災害関連事業は5カ所が採択となりました。

過去の被害件数と比較すると平成5年、7年、9年、11年は約1,000～2,000件/年、平成13年、15年は各々約800件であり、被害件数ではこれらに及びませんが、昨年度は、年度当初より当県では政府の経済政策に基づく補正予算措置に合わせ、雇用創出を目指した「上半期80%前倒し発注！」という目標を掲げていたこともあり、通常発注と同時並行で被災後約2カ月以内に査定申請を完了したため、非常に多忙な夏となりました。

そして10月には、昭和38年以降約50年ぶりとなる出先事務所の統廃合及び組織名称の変更（15土木事務所→11県土整備事務所+4支所）を行い、主要事務所には「地域整備企画監」を配置し、11の県土整備事務所に企画班を創設して、広域的な

事業調整など現地での企画調整機能の強化、機動性の確保を図っております。

「平成21年7月中国・九州北部豪雨」は、近年でも非常に大きな水害をもたらした平成15年7.19の豪雨と同規模の雨が24日と26日に1日おきに襲ってきており、最大連続雨量は平成15年の361mm/48h（飯塚エリア）の概ね2倍の661mm/72h（福岡エリア）を記録しました。しかし災害件数は同程度以下に抑えられており、特に砂防災害は箇所数、被災査定額ともに1/10程度、河川災害も被災査定額は1/2程度となっていることから、公共土木施設の治水安全度が今までの災害復旧対応及び改修事業により、県下で向上してきていることを確信しております。

しかし昨年の豪雨では、約100km²以下の流域面積をもつ中小河川に影響を与える連続3時間雨量が気象台の19箇所の雨量観測所中8箇所で記録を更新しているように、ピークの立つ短時間・局所的集中豪雨への対応は今後ますます必要となります。さらに、経年老朽化してきている高度成長期時代の管理施設の追跡調査など、事前に備える防災としての情報収集や巡視もさらに重要となっています。



岩屋川（福智町）の災害状況



八木山川（宮若市）の災害状況

《各県コーナー》

「H15.7.19」と「H21.7.24～26」の被害状況比較

平成15年7月18日～21日 梅雨前線豪雨

【金額：千円】

	河 川		砂 防		急 傾 斜		道 路		橋 梁		合 計	
	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額
県工事	211	5,472,818	25	373,607			37	412,709	0		273	6,259,134
市町村	156	1,914,973					162	1,048,828	8	96,012	326	3,059,813
合 計	367	7,387,791	25	373,607	0	0	199	1,461,537	8	96,012	599	9,318,947

平成21年7月24日～26日 梅雨前線豪雨

【金額：千円】

	河 川		砂 防		急 傾 斜		道 路		橋 梁		合 計	
	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額
県工事	138	1,985,248	3	29,089	1	9,128	27	545,337			169	2,568,802
市町村	224	1,414,812					193	1,198,934	3	120,473	420	2,734,219
合 計	362	3,400,060	3	29,089	1	9,128	220	1,744,271	3	120,473	589	5,303,021

2. 福岡県の防災・減災に対する取組み

「万一の災害に備えて、被害を軽減する力を強める」ために、事前に危険箇所を調査・把握し、重点的に堤防除草、浚渫等の維持管理や巡視を行い、さらに河川の情報共有を関係機関や県民と確実にを行うため、現在以下の5つの取組みを進めています。

(1) 情報機能の強化（情報基盤の機能向上）

現在、防災行政無線を利用し、雨量・水位などのテレメータによる観測情報を、防災関係者及び関係自治体へ配信しています。また、県庁統制局では雨量・水位に加え河川監視カメラ画像などをインターネットで公開することで広く県民に防災情報を配信し、防災活動及び防災意識の向上を図っています。実感を伴う河川の映像情報を提供することにより、住民や流域自治体の防災意識の向上や避難活動に役立ててもらおうとするものです。

今後は、テレメータ装置のIP化及び河川監視

カメラなどの大容量配信を可能とするシステムの改良を計画しており、あわせてシステムのスリム化及び集中化を図ることで、維持管理などのコストの削減にも取り組んでいきます。

(2) 効果的・合理的な河川維持管理の検討

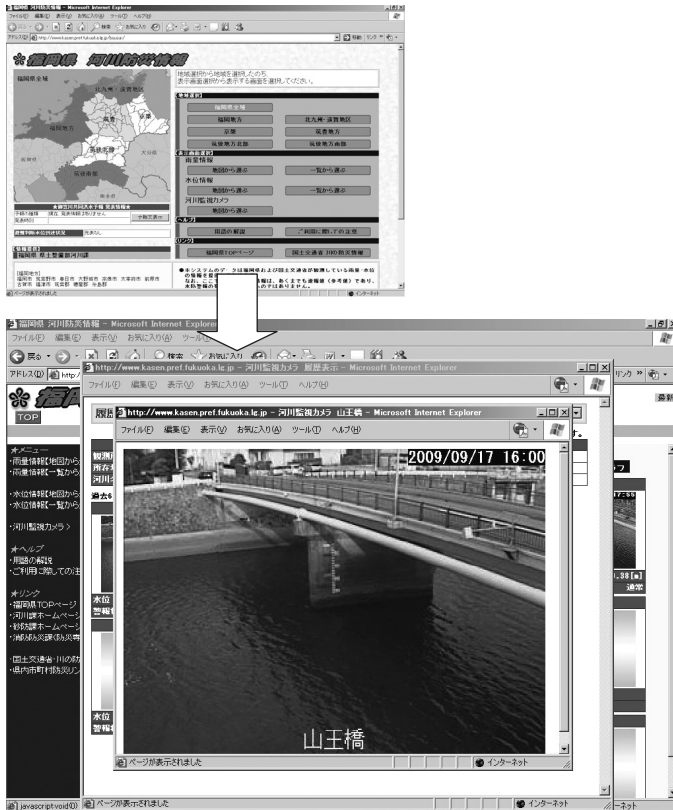
県管理河川のうち、代表的な11河川から順次、現況河川の調査及び河川の特성에合った、河川維持に関する計画を検討しています。河川巡視をする職員、各種占用許認可を行う管理係、維持・修繕工事を発注・監督する河川係が河川計画、河川環境の情報、築堤箇所や河道内の堆積傾向箇所など様々な現地情報を共有管理することで、計画的・長期的な観点からその個々の河川の特性を生かした河川管理が行えるよう検討しています。

また、今年3月からは橋梁上・下流から現況写真を撮影し、アルバム化しております。洪水期前・後の状況を比較することができ、通常の維持管理や災害査定時の被災前資料としても活用しています。

《各県コーナー》

リアルタイム河川情報（水位、画像）をパソコン、携帯などで確認できます！

インターネットweb画面



※画像は概ね10分に1回の頻度で更新する静止画像

携帯コンテンツ画面



(3) 災害研修の充実

当県では、福岡県河川協会や(財)福岡県建設技術情報センターの協力により、災害復旧事業の実務経験に応じた研修を毎年実施しています。さらに県内5箇所、災害報告から申請手続きまでをコンパクトにまとめたブロック講習会を毎年、梅雨時期までに行っています。

平成22年度も4月に第1回災害実務講習会（主催：福岡県河川協会）を開催し、県内各市町村・県土整備事務所の担当者約150名に参加いただきました。当講習会は年2回、災害復旧担当者を対象に開催していますが、前年度の災害復旧事業の総括や災害復旧事業の制度や流れ、設計・積算の考え方や留意点、災害査定指摘事項など事務及び技術の両面から講習できるプログラムとして

います。

また実践面の技術力向上を図るため、毎年5月に「災害復旧実務研修（主催：(財)福岡県建設技術情報センター）」を開催しています。

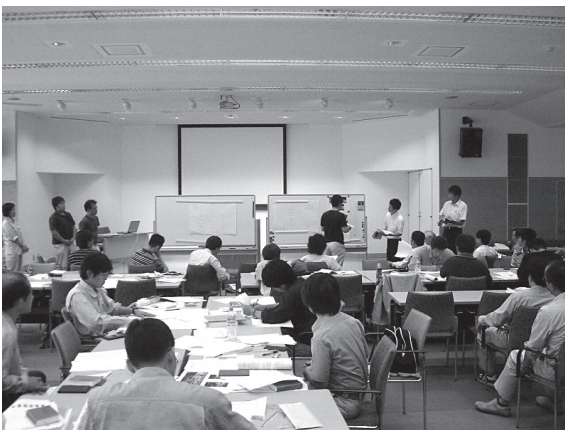
災害復旧管理システムを使った目論見書の作成方法から、国土交通省防災課より出された最新の災害復旧に関する知見・通達事項の解説など、実践に即した内容の説明をしております。その後、前年度に実際に受けた査定事例を配布し、道路班、河川班に分けて申請書や図面の作成をして、九州地方整備局の工事検査官を招いて、実際に申請の読み上げや模擬査定をしております。県内部の講師では絶対に出せない臨場感ある模擬査定は好評をいただいています。

災害発生から成功認定までには、災害復旧に係

《各県コーナー》



災害実務講習会の模様



模擬査定の模様

多くのルールや留意事項がありますが、各レベルの災害講習会に参加してもらい、迅速かつ適正な災害復旧実務が行われる一助になればと努力しています。

(4) 防災エキスパート会の活用

県土木技術職OBのボランティアにより「福岡県防災エキスパート会」が組織されています。主に、市町村の管理する河川での災害時の申請のアドバイスなどをしていただいております。

平成9年に発足後、平成15年7.19豪雨時には太宰府市からの要請を受け現地出動し、復旧工法への助言等の支援をいただきました。また、平成18年度から、市町村管理河川の適正な維持管理及

び災害時の円滑な査定を目的として、「河川現況調査」を始め、これまでに9市町村44河川で実施していただきました。

今後もしばしばというときは県・市町村へのご支援とご協力をしていただきたいと思います。

(5) 地域住民への啓発活動

防災全般にわたって、地域住民を対象とした防災講演会や災害図上訓練(DIG^{*})に職員を派遣して、防災対策のポイントを紹介するとともに、防災パンフレット、新聞、ラジオ、ホームページ等を活用し、豪雨災害時における県民の取るべき行動などの啓発に努めております。

また、平成17年6月から、広く普及している携

《各県コーナー》



防災情報等メール配信システム
防災メール・まもるくん
災害時の情報等をメールであなたにお知らせします。

河川水位情報の提供を開始!!
避難行動を行う目安となる水位をお知らせします!









メール登録先 mamoru@bousaimobile.pref.fukuoka.lg.jp
に空メールを送信し、その返信メールの内容に従って登録してください。

「防災メール・まもるくん」のシステムは、株式会社コムランドによって開発されました。
「まもるくん」のキャラクターは福岡県・福岡市のゲーム会社 株式会社ディジェイ・コンピュータによって制作されました。

福岡県 福岡県消防防災課 TEL 092-643-3112

帯電話を活用して大雨・台風などの気象情報や市町村からの避難情報等を伝えるメールシステム「防災メール・まもるくん」の運用を開始しており、現在の登録者は約6万6千人となっています。さらに昨年9月から台風や大雨などの際、河川の避難判断水位到達情報をお知らせするサービスも開始しています。これは、豪雨などで県が管理する河川の水位が上がった情報をお知らせすることで、周辺住民の皆さんに事前の準備を促し、避難



県消防防災課の公民館での災害図上訓練

勧告が出ればすぐに避難をしていただくことを目的として開始したものです。

今後とも、住民に対して、河川等の水害を含めた防災意識の浸透が図れるように、積極的に努めてまいります。

3. おわりに

福岡県で昨年被災した公共土木施設については引き続き復旧に全力で取りくんでおり、約90%が完了しております。事前協議の段階から国土交通省防災課をはじめとする関係各課、九州地方整備局、財務省九州財務支局など様々な機関の方々には大変お世話になりました、厚く御礼を申し上げます。今後も県民の安全安心な生活を守り、豊かで快適な生活環境の構築に邁進して参りたいと考えております。

※ DIG (ディグ) とは

ディザスター (災害)・イマジネーション (想像力)・ゲーム、(Disaster Imagination Game) の頭文字をとって名付けられた訓練で、災害対応能力の向上を図るため、地震や風水害、火災等、住民の生活や安全を脅かす出来事が発生した時に、どのように対応すればよいかなどを考え、自分達の課題や目標を明確にします。

自分達の住んでいる地域の避難場所や消火栓、食料等を調達できる場所、幹線道路などを把握することで災害が発生した時にすばやい対応が出来るようにするための図上訓練です。